

黒貂之裘な世界

山本 怜奈

日本女子大学附属高等学校

世界、それは非常に漠然としているものだと思う。色々な世界が世の中には存在し、自分の中にも世界は存在している。私は、誰の色にも染められていない私の世界を築きたい。自分の経験や、思考で世界を作っていきたい。私が、私の手で。

私は、3歳の時からピアノを習い、中学の音楽の授業ではヴァイオリン、高校では軽音部に入部してベースを弾いている。自分が楽器を弾く以外にも、1日に沢山の音楽を聴く。好きになるものやハマるものは大抵、音楽に関係している。「あなたから音楽を取ったら何が残りますか」と問われたら黙ってしまうくらい、私の世界は音楽というものに狂ったように染まっている。しかし、私は同時にこうも思う。この音楽の世界は自分で築いたものだろうか、と。私が聴いている音楽や、私が弾いている音楽は、私以外の人によって作られたものだ。私の思想から生まれたものではない。私の思想や経験があったから、その曲が響いたのは事実だが私が築いた世界ではないのではないか。音楽を聴くことに、努力はいらない。音楽を奏でるのには、努力が必要だが、それはただの模倣に過ぎない。私の中にある音楽の世界は、私が生み出したものなんて一つもないのだ。

では、音楽以外に抱いている価値観はどうだろう。例えば性別について。私は、自分が女性であるとか男性であるとか、そういう意識はない。あるのは人間だという意識だけである。他の人に対しても、あまり性別を意識して接することはない。同じ人間として、話している。この性別に対して抱いている私の価値観の世界は、近年LGBTQというものが話題になり、学校の授業で扱い、自分自身で考えた結果築かれた世界だ。沢山の意見に影響されて、成り立っているこの価値観。0から作った世界ではない。私の友人観も、倫理観も、親や誰かが創作した本や映画、音楽などから構成されている。そう、私の中にある世界は私が作り上げたものではないのだ。

人間が生まれて、200万年から300万年ほど経っていると言われていて今、本当に0から創作している人間はいるのだろうか。人間に代々伝わる不朽の名作と言われる作品、誰かから感化されて、誰かが作った創作物にまた誰かが感化されてゆく。感化の連鎖でできている人間の文化や創作物。人間の中にある世界も、ある種の創作物なのだ。感化されて、影響されて、触発されて、模倣して、盗作して私達は創作している。それが自分の中にある世界なのだ。私が求めている、0から誰の色にも染められていない世界を築くことは不可能だ。その事実気がついた時は、絶望した。誰かの考えをなぞるしか生き方が、世界の築き方がないのかと。しかし、今ではそれでいいと受け入れる世界を持っている。今まで生きていた人、親や友達などの身近にいる人、人が作った音楽、本、映画、文化。これらが、私の世界に沢山の色を重ねてくれている。

自分の世界を、誰の色にも染められずに世界を作るのは不可能だ。これは変わらないことは事実だが、色の重ね方や世界の大きさは自分にしか作ることができない。それが個々の世界の違いを生んでいるのだと思う。15年という短いようで長い私の人生で築かれている、今の私の中にある世界は、きっともう様々な色が重ねられて真っ黒だろう。人間みんな、誰かの作った創作物で、自分の世界を築いているのだ。人より豊かな世界を築くためには、人より多く創作物に触れなくてはならないと思う。そうして自分の世界の黒色に深みを持たせ、世界を大きく広げる。それが私が見つけた世界の築き方であり、世界の在り方だ。きっとこのようにして築かれた世界は、何にも変え難い価値のある自分だけの世界になるはずだと思う。